

2019年度事業報告書

概況

本年度は、大学生等の奨学金貸与事業から学資給与事業への一本化を行い、公益財団法人として広く公益に寄与する事業運営を行うべく、育英事業の適切、かつ円滑な推進を図るとともに、近年の教育費等の増嵩や厳しい資産運用環境を踏まえて、事業基盤の一層の強化を図り、事業内容の充実・改善に努めた。

I. 事業状況

1. 学資給与事業

本年度の学資給与事業は、前年度と同様に、幼児給与金については月額12,000円、小学生給与金は月額13,000円、中学生給与金は月額24,000円、高校生等給与金は月額30,000円を給与し、本年度より新たに大学等給与金として月額50,000円を給与した。

また、入学記念品代として、小学校新入生に1人70,000円、中学校新入生に1人50,000円、高校等新入生に1人50,000円、大学等新入生に1人150,000円を贈呈した。

(1) 奨学生採用状況

奨学生願書は年4回受付け、これを奨学生選考委員会に諮問し、採用を決定した。

本年度の採用状況は、表-1のとおり、前年度からの継続奨学生142人と新規に67人を採用した。

表-1 2019年度学資給与奨学生採用状況

(単位：人)

区分	継続者	新規採用者					異動 (増・減)	年度末 現在
		第1回	第2回	第3回	第4回	計		
幼児	5	1	0	0	0	1		6
小学生	44	1	0	0	2	3		47
中学生	30	1	0	0	2	3		33
高校生等	60	0	0	0	0	0		60
特別支援学生	3	0	0	0	0	0		3
大学生等	0	54	4	1	1	60		60
計	142	57	4	1	5	67	—	209

注：特別支援学生は、高校生等と同額を満20歳まで給与している。

(2) 学資給与の実績

学資給与金は、3カ月分ずつ年4回に分け総額75,608,000円を送金した。この内訳は、幼児給与金864,000円、小学生給与金7,124,000円、中学生給与金9,120,000円、高校生等給与金22,500,000円、大学生等給与金36,000,000円である。

(3) 入学・卒業記念品の贈呈

入学記念品として、総額4,430,000円を贈呈した。この内訳は、小学校新入生に対し280,000円、中学校新入生に対し450,000円、高校等新入生に対し1,000,000円、大学等新入生に対し2,700,000円である。

また、中学校卒業生（中学校を卒業し就業する奨学生）に対する卒業記念品の贈呈については、該当者はいなかった。

なお、これらの学資給与事業は基本財産運用益および修学助成資金積立資産（修学助成寄附金）をもって実施した。2019年度都道府県別奨学生数及び給与額は、別表(1)のとおりである。

2. 奨学金貸与事業

本年度より学資給与事業へ一本化されたことにより、新規の貸与は発生しない。前年度までの奨学貸与金については、規程に基づき返還手続き及び処理を行った。

奨学貸与金返還等の実績

奨学貸与金の本年度返還実績は、表-2のとおり総額30,815,800円である。

前年度末の奨学貸与金残高は324,230,370円、本年度奨学貸与金返還総額は30,815,800円で、本年度返還免除額は対象者1人で540,000円であることから、本年度末現在の奨学貸与金残高は292,874,570円となった。

表-2 2019年度貸与金返還等の状況
(単位：人、円)

区 分	実人数	金 額
A. 前年度末奨学貸与金残高	355	324,230,370
B. 本年度奨学貸与金返還総額 (内返還完了者)	207 (35)	30,815,800
C. 本年度奨学貸与金返還免除額 (特別免除) (免 除)	1 0 (1)	540,000
D. 本年度末奨学貸与金残高 (D=A-B-C)	319	292,874,570

3. 育英事業の推進に必要な事業

(1) 募 金 活 動

漁船海難遺児を励ます全国協議会等及び水産関係団体の協力を得て、基盤強化を図った。

(2) 普及指導活動

ア. 「育英会だより」の発行

年4回各4,500部発行し、遺児家庭、JFグループ及び関係方面に広く配布した。

イ. 広報・募金コーナー設置

漁船海難遺児を励ます全国協議会、同地方協議会及び全国漁協女性部連絡協議会等の協力を得て、全国各地で行われた各種イベントにおいて広報・募金コーナーを設置し、広報資料等を配布した。

ウ. 奨学生・保護者交流活動の実施

本年度で第9回の開催となる奨学生・保護者を対象とした交流活動「2019ふれあい旅行」を7月26日から28日にかけて栃木県の鬼怒川・日光東照宮周辺で実施した。参加者は奨学生12名、保護者8名の計20名であった。

エ. 広報活動

事業の趣旨及び内容について広く一般国民の理解を得るため、機会あるごとに資料の配布や報道機関等の協力を得てPRを行い、募金及び「励ましおじさん・おばさん」の募集に努めた。

また、ホームページを用い給与事業への一本化の周知について情報公開した。

(3) 実 態 調 査

中学校、高等学校等及び大学等の卒業生の進学・就職に関する動向等、卒業後の進路を調査した。

II. 寄附金、基本財産、特定資産

1. 寄附金（修学助成寄附金）

（1）水色の羽根募金

本年度の寄附金は東日本大震災以降、水産業を取り巻く環境が厳しい中で、表－3のとおり39,138千円の実績となった。計画対比78.3%（計画50,000千円、前年実績39,003千円）

表－3 2019年度一般寄附金実績
(単位：円、%)

区 分	金額	構成比
J F グ ル ー プ 募 金	17,330,286	44.3
一 般 寄 附 金	21,807,841	55.7
合 計	39,138,127	100.0

（2）励ましおじさん・おばさん奨学資金

定期的に支援いただく「励ましおじさん・おばさん」については、前年同様に募集を行った結果、2,814,500円となった。計画対比80.4%（計画3,500千円、前年実績2,886千円）

なお、年度末現在数は74人（前年度65人）であった。

2. 基本財産

基本財産は、本年度期首額5,957,313,983円に対し、表－4のとおり本年度期末額5,957,776,837円となった。

表－4 2019年度期末基本財産額
(単位：円)

本 年 度 期 首 額	5,957,313,983
投 資 有 価 証 券 償 還 額	370,000,000
投 資 有 価 証 券 購 入 額	370,000,000
投 資 有 価 証 券 当 期 償 却 額	462,854
本 年 度 期 末 額	5,957,776,837

3. 特定資産（修学助成資金積立資産）

特定資産は、本年度期首額230,397,826円に対し、表－5のとおり本年度期末額239,072,277円となった。

表－5 2019年度期末特定資産額
(単位：円)

本 年 度 期 首 額	230,397,826
本 年 度 増 加 額	73,000,020
本 年 度 減 少 額	64,325,569
本 年 度 期 末 額	239,072,277

本年度期末特定資産額239,072,277円の内訳は、投資有価証券15,294,091円、特定預貯金223,778,186円である。

なお、投資有価証券の増減については、前期末残高65,354,317円に対し、償還額50,000,000円、購入額0円、当期償却額△60,226円であり、本年度期末残高は15,294,091円となった。

以上